

## 「チンアナゴの模型づくり (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

大きな水槽の中でユラユラ生活しているチンアナゴとニシキアナゴ・・・そのユーモラスな姿は、多くの子どもたちの心をとらえるようだ。



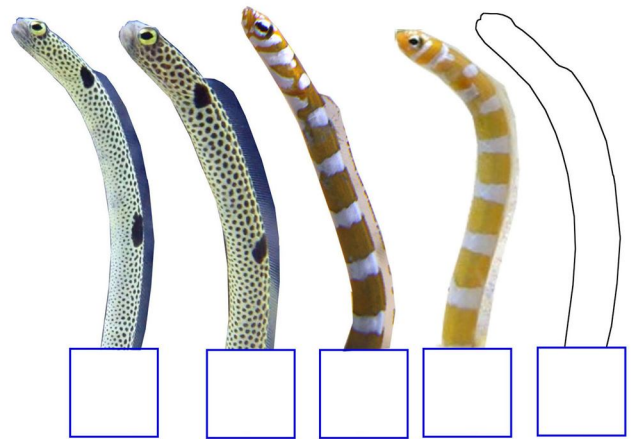
私はこの不思議な生き物の「模型」を作る活動をさせて、更に興味を持たせたいと思った。

子どもたちでも作れる模型にするには、どうしたら良いだろう? 一番最初に思いつくのは、紙粘土だろう。針金やモールを芯材にして、自由に形状を作れそう。しかし、乾くのに時間がかかり、立体的な台座が必要なので、かなり手間も時間もかかる。



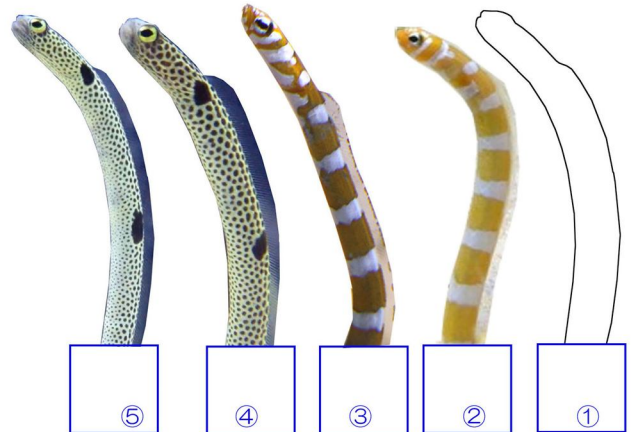
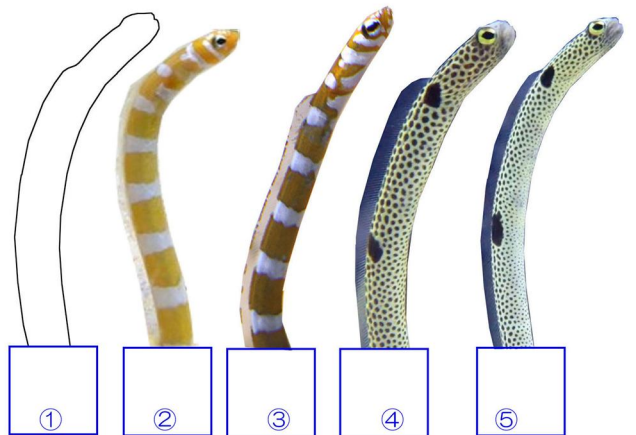
次に思いついたのが、立体的な紙の模型だ。1学期に試した、アゲハの幼虫の模型のようなものだ。これは、両面の型紙を貼り合わせて筒状にし、中にティッシュや脱脂綿を詰めて、立体感を出すという方法だ。アゲハの模型だと結構上手にできるのだが、チンアナゴの場合かなり細長いので、中に詰め物をする時に、型紙が破れてしまうだろう。

次に考えたのが、平面的な型紙である。写真から作ったチンアナゴとニシキアナゴの型紙を、きれいに切り抜いて、厚紙の上に貼って立てるといったものだ。

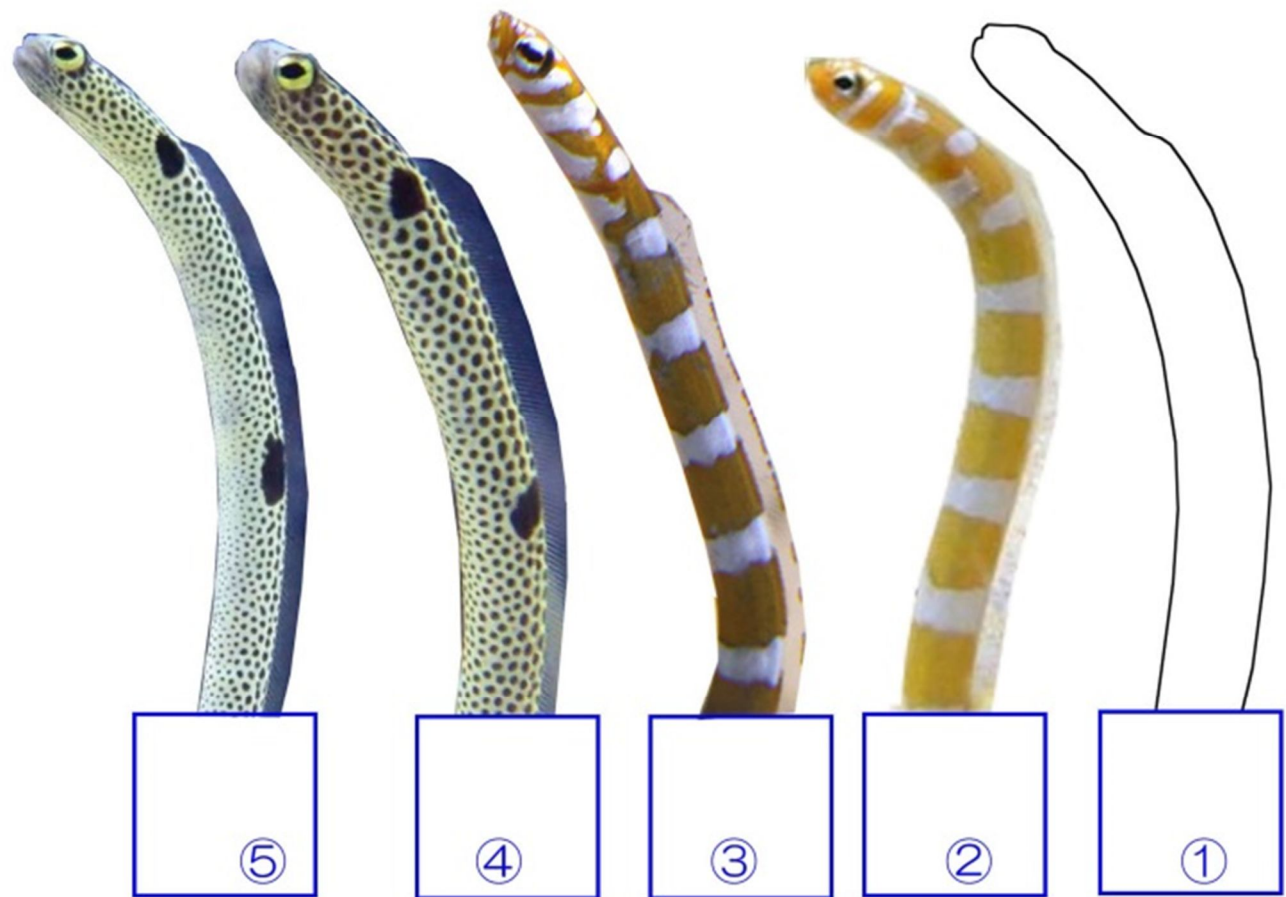
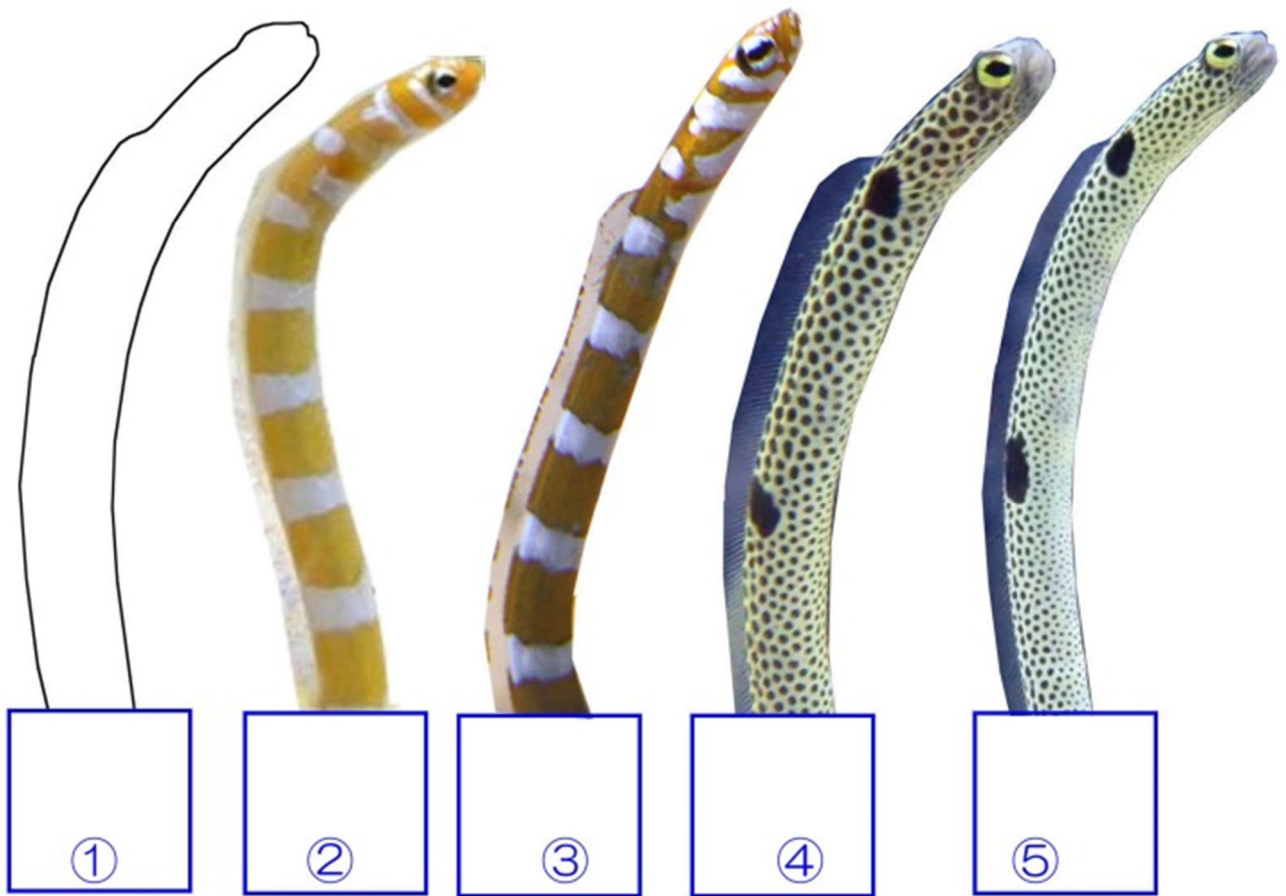


これがその型紙である。下の正方形が「のりしろ」で、一緒に切り取って、立てられるようにする。実際に作ってみると、まあまあリアルな感じになった。

しかし、私の「研究」の様子を見ていた理科部の同僚が、「表だけじゃなくて、裏も印刷して、貼り合わせたほうがもっとリアルになる」とアドバイスしてくれた。これは画像を反転させれば、簡単に作れる。



これがその結果できた型紙である。(2ページ目に拡大画像あり) どんな活動になるかワクワクしてきた。



A 4 ケント紙か画用紙に印刷推奨。